

## 平成 29 年度「歯科疾患・歯科保健サービス等と就労環境との関わりに関する研究」

### 研究結果の概要

#### A 研究の目的

働いている人の職場での作業環境が歯科疾患にかかることに対する違いがどの程度であるかを調べることと、職場での歯科保健サービスを普及しやすくするための基礎資料を得ることが本研究の目的です。

#### B 研究方法

この研究目的を達成するため、

- 1) 食品メーカーの 5 つの工場等での歯科健診及び質問紙調査等を 2017 年 8～9 月に北海道、千葉県内及び愛知県の 5 つの工場の勤務者 4 6 2 名を対象に行いました。
- 2) 2015 年度の研究事業で策定した e-learning 教材の改良を行い、動画を追加しました。
- 3) 文献調査を行い、ワイン試飲者で歯の酸蝕症が多いことや高圧作業環境下で気圧性歯痛が発生する場合がある等、歯科疾患との関わりについて文献収集を行いました。
- 4) 2015 年度に行った WEB 調査等を行うことで歯科保健に関与する要因の分析を行い、金融機関従事者での定期的な歯科受療や販売、営業に従事している者の未処置歯の状況及び要因の分析を行いました。
- 5) 歯のメンテナンス治療による歯の喪失影響調査  
歯のメンテナンスを進めることによる歯の喪失防止の状況を調べるため、約 30 の歯科医療機関で、メンテナンス治療を行っている者と行っていない者での歯の喪失状況についての調査を行いました。

#### C 研究の成果

##### 1) 食品メーカーの 5 つの工場等での歯科健診及び質問紙調査の結果

① 北海道および千葉県内の工場で勤務する 415 名に対して、いわゆる酸蝕様所見歯を調べたところ、酸蝕様所見歯が認められる方は、おおむね半数を示しました。このうち、仕事として、飲食物を試食または試飲することがある者は約 30%に対して、日常生活で、週 6 日以上ワイン、柑橘類、酸味の強い食品を飲食する習慣がある方が約 1 割を示し業務上の試飲、試食がある者の場合、酸蝕様所見を示す方が高い割合を示しました。

② 愛知県内の工場で 47 名を対象に行った調査では、就労時に試飲、試食を行っている者の場合、行っていない方に比べ齲蝕については差がありませんでしたが、歯根面を調べたところ、健全な根面の割合が少ない状況でした。

##### 2) e-learning 教材の改良

e-learning 教材については、現在、「お口の健康ポケットパーク」(<http://iiha.biz>)として、WEB 上に公開しています。教材のスタート画面に、動画コンテンツ用のクリックボタンを新設し、「む

し歯予防に有効な歯みがきの方法」と「デンタルフロスの使い方」の2編を追加しました。動画の時間は1編あたり1－2分程度にまとめました。

### 3) 酸蝕等に対する文献研究

労働環境との関わりが大きい歯科疾患の状況について文献研究を行いましたところ、Tooth wear に代表される酸蝕、咬耗、摩耗のうち、酸蝕について、ワインテースターでの影響を示唆する文献が見受けられました。このほか、潜水士や航空機パイロットにおいて気圧性歯痛が散見されることを示す文献研究がなされていることがわかりました。

### 4) WEB 調査等での歯科保健の関与要因分析

(1) 金融業の男性では、年1回以上予防処置を受ける者の割合が約4割で、歯の予防処置を受けている方の受診と関連している要因として、昼食後の歯磨きの実施、歯の清掃のための補助的な清掃用具の使用、未処置歯がない、学歴が影響していました。

(2) WEB 調査の結果から、販売・営業職と事務職での比較を行いましたところ、未処置歯のある方は、販売・営業職で約28%に対して、事務職の場合、約1割で、販売・営業職の場合、未処置歯のある者が多いことが示されました。

### 5) 歯のメンテナンス治療による歯の喪失影響調査

初診から調査実施時点までの歯のメンテナンス治療の影響について、歯の喪失リスクが高いとされる歯そう骨吸収2分の1以上の方の場合、初診から調査の時点までの間の歯の喪失について、メンテナンス治療を行っていない場合、喪失3歯以上の者が60歳以上の方で、多くなることが示されました。

## D 結論

事業所で業務上の試飲・試食を行っている方を調査したところ、酸蝕様所見歯が認められる方が約3割を示し、生活習慣で酸に関連する飲食物を接種している者での1割を上回りました。今後、さらに調査を重ねていく必要性が示唆された。

また、潜水士等高压作業に従事している方の場合、気圧性歯痛を生じる可能性が文献的に認められました。労働安全衛生の施策を進めていく上、さらに知見を集めていくことが必要であると考えられました。

## E 今後の展望

働いている環境と歯科疾患との関わりについて、今回、行ったフィールドでの調査や文献による調査の結果を参考にしながら、ワインに関連する事業所でのフィールド調査や気圧性歯痛を生じることがある潜水士等に対する調査を行っていくことが必要であると考えられました。

また、これから歯科保健サービスを進めてしていくための基礎資料を得ていくためには、糖尿病を含め基礎疾患と歯科疾患との関わりを詳細に把握していくことが求められるので、レセプトによるビックデータであるNDBデータ(=レセプト情報・特定健診等情報データベース)による解析を進めていくことが必要であると考えられました。